

1 各期における大人の関わり

子どもたちが、本に触れ親しむためには、本が身近にある環境を整える必要があります。乳幼児期からの読み聞かせや家読などは、家庭が主体となります。また、大人の声かけは、子どもたちの興味や関心にとっても大きな影響力を持ちます。大人たちが、本を読み聞かせたり、お勧めの本を紹介したり、自ら読む姿勢を見せることで、子どもたちに興味を持たせ、「本を読みたい」という気持ちを芽生えさせることができます。各期において家庭や地域など、子どもを囲む身近な大人が読書の重要性を認識して関わるのが大切です。

【大人の関わり（取組）】

- 家読の実施
- 読み聞かせや語りかけ
- 家族での図書館、移動図書館車の利用
- 読書手帳の活用（読書記録）
- ノーゲームデーやノーゲームタイムの取り入れ
- 図書館行事や、読書関連講演会などへの参加
- 職場等での貸出文庫や団体貸出^{※1 2}の利用
- 読書ボランティア活動

2 広報・啓発活動の推進

読書活動の意義や楽しさについて知ってもらうために、保護者を対象とした、子どもの読書活動に関する学習機会を設けるなど、子どもの読書活動の推進に向けた情報を発信する必要があります。そのため、図書館の活動や情報がわかるように、広報やホームページ等を活用し、さまざまな情報を発信していきます。

ア 子ども向け

- ・ 図書館の行事や本の情報を「図書館だより」、「広報あしべつ」、「ホームページ」等によりお知らせします。
- ・ 読み聞かせ、ブックトークなどの事業を通して、読書の楽しさを伝え、読書週間行事等を通して本に触れる機会を増やしていきます。
- ・ 夏休み、冬休みの宿題や調べものでの図書館の利用を促進します。

イ 大人向け

- ・ 読書活動の意義を知ってもらうための事業を行うなど、読書の啓発に努めます。
- ・ 図書館の有効性を知ってもらい、図書館に来る機会が増えるよう、「図書館だより」、「広報あしべつ」、「ホームページ」等により情報を発信します。

※1 2 団体貸出：企業や団体などに、複数冊の本を貸出する事業